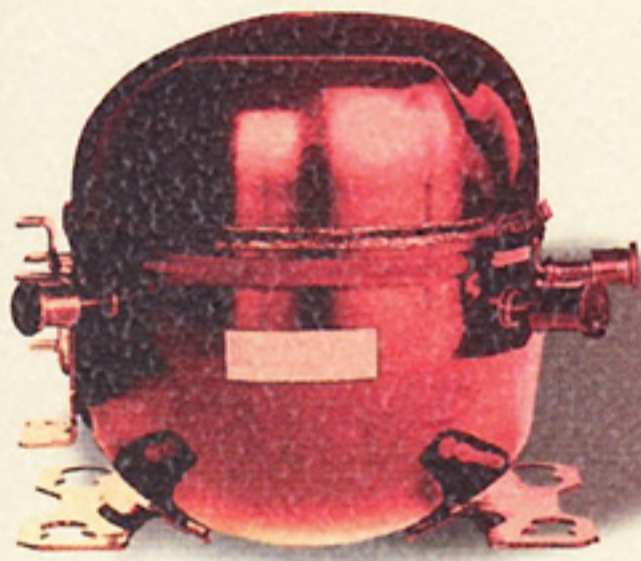


壁 土 は 破 る

ブレークスルーに徹した九十年

黒河 力



た
め
に
あ
る

壁は破るためにある

ブレイクスルーに徹した九十年

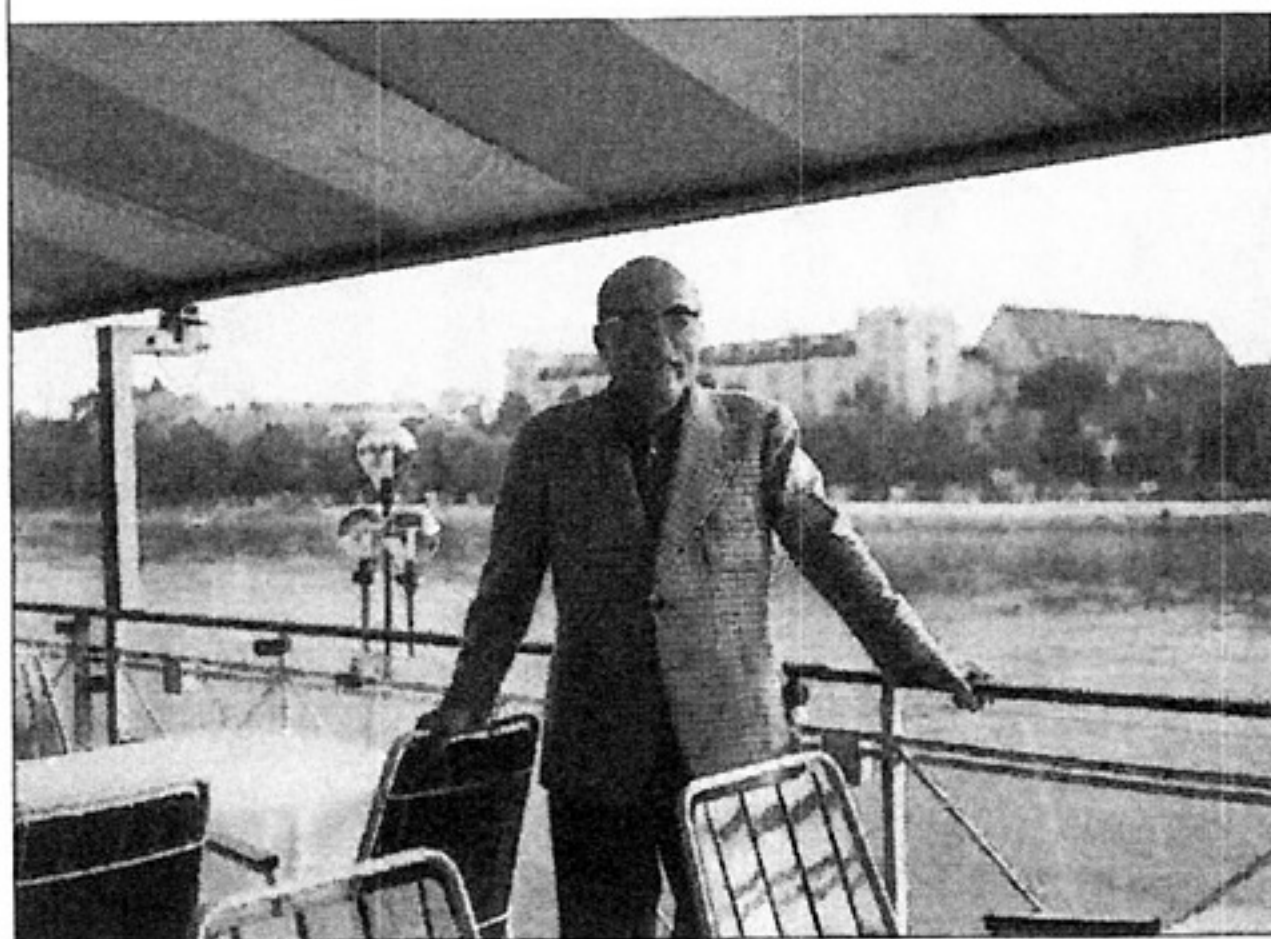
黒河 力



⑦ 高度成長の波に乗って業績急拡大

1963-1986

東京三洋電機専務から
副社長



海外出張での一コマ

「僕の従姉妹に、いい人がいるのだけど」

一九六三年（昭和三十八年）初頭、太田市で一番大きな病院である本島病院の事務長さん、本島虎太氏から妻にどうか、とお話がありました。氏は当時、商工会議所の会頭をしておられたので、よく会合などでお会いしていたのです。その従姉妹が現在の妻・節子ですが、本島病院長の令妹で、詩人でもあり、昭和女子大出の才媛ということでありました。私のような子連れでいいのかと念を押したことでした。

会って見ると、背のすらりとした品のいいお嬢さんで、詩人らしく言葉もすつきりと爽やかな感じを受けました。私は張り切って大島の着物と羽織で出掛けました。その甲斐あつたかなかつたか、彼女の決断には時間がかかりましたが、五月には東京のホテル・ニュージャパンで挙式となりました。そのホテルは火事で焼けてしまつて今はありませんが、最高の設備の整つた華やかなホテルでした。

私は取締役という役柄、今日は大阪、明日は東京と忙しく駆け回っていた時代ですから、招待客も

多く賑やかな宴でした。機械ばかり相手にしてきた男にしてはしゃれた相手を見つけたものだと言友人に冷やかされましたが、詩に興味があったわけではなく、女性詩人という新しい時代の女性に魅かれるところがあつたのかもしれない。

結婚とは「悲しみを半分に、喜びは倍に」と申します。今、振り返ってみますと、ふたりの悲しみ、喜びの数を年輪のように重ねることによって、心からのパートナーになるのだらうとしみじみ思うのであります。

ケネディ大統領の暗殺の報が世界を揺るがせたのはその年の十一月でした。アメリカはどうなつて行くのか複雑な思いで聞きましたが、この国際政治の混乱をよそに、つぎの年は東海道新幹線開通、東京オリンピック開催と日本中がわき立ち、テレビをはじめ家電製品の売れ行きは爆発的な勢いで伸びつづけました。すでに東京三洋電機の資本金は三十億円、東京証券取引所一部に上場です。

私は一九六三年に東京三洋電機専務取締役就任し、翌年には四男俊介も誕生しました。新しい時代の風を押されて、やることなすことすべてうまく運んだ時でした。一九六八年（昭和四十三年）には三洋自動販売機専務取締役も兼任しました。

私が最初から力を入れてきた冷蔵庫も次々に新型を開発。世界初のソリッドステート回路を組み込